

平成30年度第2回山元町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 平成30年10月25日(木) 午後1時30分から午後3時10分
- 2 開催場所 山元町勤労青少年ホーム 1階 講義室
- 3 出席者 別紙「出席者名簿」のとおり
- 4 概要 以下のとおり
 - (1) 開催
 - (2) 開会の挨拶
 - (3) 議題
 - ①小・中学校再編について
資料1に基づき説明(説明者:佐藤学務課長)
 - ②レクリエーション施設(パークゴルフ場)の今後の取り組みについて
資料2に基づき説明(説明者:佐山生涯学習課長)
 - (4) その他
 - (5) 閉会

1 開催にあたり【司会:佐藤学務課長】

ただいまから、平成30年度第2回山元町総合教育会議を開会いたします。
開会にあたりまして、山元町長 齋藤 俊夫よりあいさつを申し上げます。

2 あいさつ【山元町長:齋藤俊夫】

お忙しいところご出席いただきまして誠にありがとうございます。

委員の皆様方には日頃から未来を担う町の子ども達、町民の誰もが将来へ夢と志を育む教育行政の実現に向けまして日々ご尽力いただいておりますこと、心から感謝申し上げます。

今年度は震災復興計画の最終年度ということで、おかげさまで、復興創生関係の各種事業は確実に進んでおります。また、成果も上がっているということで、委員の皆様には感謝を申し上げ、最近の状況をお話し申し上げたいと思います。

まず、「天高く、馬肥ゆる秋」という季節を迎えまして、東部の区画での農地について、水田で初めての収穫を迎えることができました。

庁舎については、12月に完成、新年度の共用開始に向け順調に進んでおります。共用開始については、必ずしも新年度4月からとはいかない可能性もありますが、時期についても早めに決めたいと考えております。

そして、坂元駅前の産直施設のオープン日が決まりまして、2月9日土曜日となり

ました。こちらの方も、株式の関係、働いていただく支配人などのスタッフの確保に努めているところですが、まずは、2月9日に向けて、担当者の方で、精力的に事に当たっているという状況でございます。

それから、山下駅前の最後の商区画には歯医者が入るということで、「つばめの杜歯科委員」が、来月5日からオープンすることとなっております。

岩沼市と亘理の行政事務組合で運営している消防について、広域化の許可を県知事から頂いたということで、これは間違いなく、来年4月から新体制で業務がスタートする状況であります。

それから復旧復興で痛んだ町道大規模補修工事、総延長23kmが完了しましたし、昨年の台風21号での250箇所被害の復旧についても、未発注1箇所がありますが、工事は順調に進んでおります。

このような中で、申し訳ないのは、国道6号の右折レーン、高瀬、ゴルフ場入り口の2箇所について、河川国土事務所で、入札を行うましたが、2箇所とも、あいにくの入札の不調となりました。国道は車がいっぱい走ってきます。必要以上に安全管理を要求される工事箇所、工事の効率も上がらないような場所なものですから、まだまだ色々な工事が目白押しの中では、そう簡単に受けてくれる人がいないという状況があるということでございます。

次に、この後の担当課からの話しもあるかと思いますが、町の新しい宝である線刻壁画が2年ぶりに戻ってきて、来月3日から一般公開されます。

町全体としては、生業なり賑わいの再生の方に舵をきって、それが着実に進んでいるというところですよ。

肝心の小・中学校再編についても、検討委員会の皆様方のご尽力によりまして、先月11日に教育委員会に対し最終報告書が提出されたということで、今日は、皆様と意見交換を行いたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それから、この機会にハード面の環境整備だけでなく、非常に弱いといわれる学力向上についても、今まで以上にこいれをしていかなければいけないと、問題意識を持っておりまして、教育長、学務課と考えを共有してもらっていますので、そちらの方にも力を注いでいきたいと考えております。

それから、今日の2つめの議題ですけれども、パークゴルフ場関係につきましても、先般の9月議会で、ようやく2年ぶりに、パークゴルフ場の整備に向けた動きがとれるようになったということです。後ほど、生涯学習課長の方から申し上げますが、私の方からも補足をさせていただきながら進めていきたいと思っております。

本日の議題については、大きく学校再編とパークゴルフ場の2点となっておりますが、忌憚のない意見をいただきながら、有意義な会にしたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。挨拶の言葉といたします。

－以下議事－

3 議 題

【司会】（佐藤学務課長）

それでは、次第に基づき、会議をすすめさせていただきます。

議題の進行につきましては、山元町総合教育会議運営要綱第4条の規定に基づき、齋藤町長が議長となり、進行させていただきます。よろしくお願いいたします。

【議長】（齋藤町長）

はい、それでは、議事の方をすすめさせていただきたいと思います。

最初は、「小・中学校再編について」ということで、事務局からご説明をお願いします。

【説明】（佐藤学務課長）

はい、それでは、私の方から、議題の1点目「小・中学校再編について」ということで、事前にお配りしております、検討委員会から頂いた「報告書」と、「今後のスケジュール」関係、本日お配りしております、左上の方に「各戸配布チラシ原案1」「原案2」と書いてある2種類、こちらをご準備していただければと思います。

「学校再編報告書」こちらについては、事前に教育委員会の臨時会等を開催し、内容等についてはご説明しておりますので、簡単に要点のみに絞ってとじていただければと思います。

それでは、1枚めくっていただきまして、「報告書」の内容構成でございます。

「はじめに」ということで始まりまして、第1章が、「平成25年度の教育環境整備方針の概要」と、第2章としまして「小中学校の現状と課題」、3章、4章、5章というふうな構成で綴っております。次のページにいきますと、第6章として、「小中学校再編の方向性」ということで、検討委員会の検討結果、方向性について、第6章で示させてもらっております。第7章としまして、「再編をするにあたって留意すべき事項等について」ということで、6項目、配慮する事項として挙げさせてもらっています。

それでは、中の方の説明を若干したいと思います。

それでは初めに、11ページの方を開いていただければと思います。

11ページにつきましては、検討委員会の設置、開催状況ということで、これまでの会議等の概要等が記載されております。29年、昨年11月14日に、第1回目の検討委員会を開会ということで始まりまして、延べ14回の会議を開催しております。この間ですね、30年1月中旬ということで住民、保護者への住民意向調査の実施、2月8日に丸森町の小中学校の視察を行いまして、検討を重ねてきたところでございます。

次の12ページになりますが、8月3日から5日にかけて、地域住民への説明会ということで、計5会場で開催しております。

最後になりますが、10月11日に第14回の検討委員会を開催しまして、最終的

な報告書の取りまとめ、それから、教育委員会に対して報告書の提出ということで行われております。

それから、飛ばしまして、37ページをご覧くださいと思います。

こちらには、検討委員会での検討結果ということで、小中学校再編の方向性ということでまとめていただいております。

初めに、1としまして、小学校再編については、「①小学校再編における留意点」ということで、「クラス替えができる」とか、「複式学級は避けるべき」、また、「人口推計から最終的に1学校区となることが想定」と、そういうことを踏まえまして、1学校区とする方向性を示し、中学校再編後に調整すべきとの意見等が出ております。

このような課題、留意点を元に検討結果、②にありますように、「小学校再編における方向性」ということで、「小学校は、将来的に1学校区として再編を進めるべきと考える」ということでございます。中学校再編後ということで、「概ね10年後を目途として再編を進める」という意見がついております。

次に、中学校の再編についてということで、「切磋琢磨できる環境が望ましい」とか、「専門教科教員の確保が困難なことでの、学力面での不安」「学業だけでなく、部活動も」ということで、「早急に再編を」という意見となっております。

次のページにいきますと、38ページに中学校再編における方向性ということで、「中学校は、早期に1学校区として再編すべきと考える」ということです。一つの目標としまして、「2021年4月を目途に、現山下中学校を活用し、再編をすすめる」という意見となっております。

このような形で、11日、検討委員会から報告という形で、最終報告書を頂いたところでございます。

次に、1ペーパーで、「小中学校再編検討の今後のスケジュール」ということで、お配りしております。今回の報告書を頂いて、教育委員会として、この報告書を元に検討しまして、最終的に教育委員会の方針というものを、前回平成25年当時同様、方針をまとめていきたいと考えております。今後の動きとしましては、11月になりますが、来週の水曜日、区長配布がございまして、この際に、教育委員会として12月2日に住民説明会を開催したいと考えておりますので、そのご案内、それから、学校再編に向けた今後の方針案等を住民の皆様にお示ししながらと考えております。この後、ご説明しますが、各戸配布ということで、7日に区長さんを通じて、全戸に学校再編の方向性をチラシとしてお配りしたいと考えております。12月2日に、山下、坂元でそれぞれ住民説明会を開催しまして、その内容、意見等を踏まえながら、最終的に教育委員会の方針を決めて、その後、12月25日になりますが、今年度第3回目の総合教育会議を開催しまして、町と教育委員会でその方向性を確認ということで会議を設けたいと考えております。会議終了後、25日同日になりますが、第9回の教育委員会定例会で再編の最終的な方針ということで取りまとめを行いたいと考えております。

それから、本日お配りしました各戸配布チラシ、原案1、原案2ということで2種

類作成してお配りしております。これは、11月7日に町民向けに学校再編の方針として、教育委員会としての素案をお示ししながら、説明会に向けていきたいと考えております。原案1は、1として、学校再編の検討の経緯をまず前面に出して、住民意向調査の結果、児童生徒数の推移、このような表を元にお示ししていこうかと考えております。裏面にいきますと、小中学校での課題、必要性、この中には部活動の状況なども入れております。右側になりますが、3として、中学校の再編の方針ということで、検討委員会において審議し、取りまとめられた最終報告書を尊重し、「平成25年度策定の「山元町小中学校教育環境整備方針」を一部見直し、小学校1学区、中学校1学区として、今後の小中学校再編の整備方針として位置付けるものとする」という検討委員会の報告書を尊重するという形で、町民の皆様へ教育委員会の考えとしてお示ししていければと考えております。

原稿2の方ですが、こちらは、表を弱冠省いて、A4、両面にまとめる形としております。裏面の方ですが、この中に3として、学校再編の将来の学校教育の充実ということで、これから説明をしますが、学校再編だけで進めるというだけでなく、再編と並行して、今後学校教育の充実も図っていくということを、町民の皆様にもお示しながら、学校再編、そして学校教育の充実を今後計画的に図っていければと考えております。今回2つの案を示させていただいておりますが、事務局案としましては、この原案2の方でA4、1枚にまとめてという形でお配りできればと考えておりますので、この辺について皆様のご意見をいただければと思います。

枚数等につきましては、説明会当日、パワーポイントを使いながら、会場での説明としていきたいと考えていたところです。

私から資料等の説明を行いました。学校再編と併せまして、これからの学校教育の充実ということで、資料を準備していますので、これについて教育長さんから説明をお願いしたいと思います。

【教育長】（菊池教育長）

それでは、私の方から、学校再編とこれからの学校教育の充実についての構想という資料と、続けて学力向上の策の案というものについてお話しをさせていただきます。

はじめに、「学校整備とこれからの学校教育の充実についての構想」というものについては、前回の臨時会の時にもお配りして、お話しをしておりますが、簡単にもう一度お話しします。

今回の学校再編の検討の意味合いがどういうものなのかということと、併せてこれからの山元町内の学校教育の充実をどのように考えていけばいいかということを整理したものです。1番に示したのが、今回の再編検討の意味合いですが、これについては、25年3月に教育環境整備方針が出されたのですが、その延長としての検討になるであろうと。特に、平成25年3月の方針は、被災直後の対応に関する方針であり、今回30年12月に出す方針については、その状況とか見通しも踏まえての対応であると。この再編の検討というのを、これからの学校教育の充実のスタートにすべ

きではないかということです。

2番の方には、再編の見通しと、今後特に学力向上をはじめ、色々町内の子ども達、学校の課題が浮かび上がって来ていますので、それらを踏まえてのこれからの学校教育の充実を図る必要があるだろうということです。課題については、いわゆる、知・徳・体それぞれについて、色々課題が見られます。これらを踏まえつつ、いわゆるハード整備からソフトの充実ということでの教育の充実を、小学校の再編が10年を目安ということにされていますので、それを1つのスパンとして、町づくりでは、第5次総合計画がこれから出来ませんが、それと学校再編と併せて、並行して学校教育の充実を図っていくべきではないかと。

一番下に示した「10年を見通した取り組み」ということですが、これに関しては、後で少し触れますけれども、町長が視察した石川県の中能登町という所で、やはり、学校の統合、再編と併せて教育の充実を図ってきたという一つの例がありますので、それらをひとつ参考にしながら、今後、ここにある様な見通しを持って、学校再編並びに教育の充実を図っていけないかなということです。

2枚目の方ですが、「町づくりと学校教育」ということについては、町では「子育てするなら山元町」ということで取り組んでおります。それと学校教育の充実はどの様な関係になるかといえ、子ども達の活躍が町を元気にするというのが一つの要素になるだろうと。それに対して、保護者、地域、町も学校を支援していただくことで、両方関連させるような形で学校の充実を図っていくのではないかと。下の方には、「学校教育が目指すもの」と挙げたのですが、学校教育の充実の下に掲げた「未来を生き抜く力の育成を目指す学校教育」とか「夢と志を持ち、その実現に向けて自ら考え、行動する子どもの育成」これは今現在、まさに教育方針として掲げている目標です。これが一つ指標のようなものになって、下にあります様に、環境が整備される中で、それぞれ知・徳・体の充実を図っていくと言う取り組みをしていくべきではないかということです。

3枚目には、今後、実際に取り組みにあたっての教育委員会学務課内部の人的な体制ですけれども、町長からもご理解をいただいている中で、来年度、割愛なり任期付きの職員を入れていただく形で、特に割愛の方については、中学校の管理職で、特に中学校の再編業務を主に担ってもらい。任期付き、これは退職管理職経験者ですが、こちらには、学校教育の充実の事業を中心に組みんでもらうと。ただ、独立して全く別々ということではなくて、色々お互いにクロスしながら、あとは、課長なり、班長も交えながら、下にあるような学校教育の充実、あるいは学校再編の業務を進めていければと考えているところです。

このことが、先ほど課長が言った今後の教育委員会の方針案の中にも、それなりに示しながら、町民の方々にもお知らせしながら、再編を進めていきたいということのご理解をいただける形にするのがいいかなと考えています。

もう一つの資料ですが、学力向上策の案というのがありますが、これについては、今年だけではないのですが、本町の学校教育の中で、学力に関する課題が非常に大き

いということで、今後どういう取り組みが考えられるかというのを、現段階で整理したものです。

1番、データからということでは、全国の学力調査で、町内の子ども達は、県、全国平均を下回っているという実態があります。それから、学力調査と併せて、学習状況調査とか、全国の学習状況調査、それから宮城県独自の学習意識調査が、ここにある様な学年を対象に行われていて、それを色々見ますと、下に挙げたようなことが課題として浮かび上がってきています。こういうことを念頭に置きながらの今後の取り組みかなということです。

2番には、大河原町教育委員会の実績、参考となるものと書きましたが、9月の下旬に大河原町の教育委員会へ行きまして、大河原町の取り組みを実際に色々聞いてきました。現在、県の方では、大河原町の取り組みが、学力向上に関する一つのモデルということで位置づけをして、広く紹介しています。町を挙げて大河原の教育委員会で色々取り組んでいることで、本町でも行った方がいいと思われるものがいくつかあります。特に特徴的なものは赤字で書いていますが、このあたり、本町でも今後取り組んでいくといいかなと思っているところです。

めくっていただきますと、先ほど言いました石川県中能登町の実践、これは特に資料を中心に拾い出したものですが、この町は、平成17年に3つの町が合併して、新たに出来た町で、この段階から学校の統合、再編が進みまして、当時は小学校6つ、中学校3つあったものが、現在は小学校が3つ、中学校が1つという状況です。色々なソフト的な事業にも取り組んできているということですが、(3)にあります、「夢プロジェクト事業」ということで、特に、平成22年度から約10年間の取り組みで、学校統合に併せて統合中学校の開校を飾るような取り組みをしていくとか、3期に分けて色々な取り組みをしているということがありました。事業の内容とか組織体制など、ここに挙げた様な取り組みをされているということですが、この辺も参考にできるかなと。3枚目にいきまして、特に学力向上に関する取り組みといっても、色々やっているということですが、大河原との共通するような取り組みも色々あるようです。その辺も参考にしていきたいと思います。

それから、4番、各校長からの提言ということですが、今回の学力調査の結果を受けて、町内の6つの学校の校長さん方に、今後の学力向上への取り組みについて、レポートという形で出してもらったのですが、特に町全体として取り組んでいくといいと思うようなことも挙げてもらっています。主に挙げました。

最後、5番ですが、これは、今までの1から4までを受けて、今後町として取り組んで言ったほうがよいと思われるものを、今の段階で私の方で挙げたものです。これらについては、予算を伴いますし、取り組みの体制についても、学校とも色々相談しなければいけないことなので、荒々の素案ということになりますけれども、今後、これを一つたたき台にして校長会等とも相談しながら、色々取り組んでいきたいなと思っているところです。

再編ということに加えて、今後の教育の構想ということでお話をさせていただきます

した。以上です。

【議長】（齋藤町長）

はい、ありがとうございました。

初めに、再編の關係に絞ってご意見等を伺いたいと思いますが、報告書に関しては、これまでも何度かお話をさせていただいた内容ですが、改めて事務局に確認しますが、検討委員会には20名の委員がおりますが、会議への委員の出席状況、出席率はどんな感じでしたか。

【事務局】（佐藤学務課長）

20名中、平均すると1人ぐらいずつ欠席はありましたが、PTA会長には勤めの方もおりましたので、ただ、遅れても出席いただいておりますので、概ね出席率は9割以上だったと思います。

【議長】（齋藤町長）

熱心に検討を重ねて頂いたと考えております。やはり、回数もありますが、認識、議論が深まったのは、人口關係のデータがタイムリーに出たということも、特に小学校の關係が2段構えでなくとなったのではと考えております。

それから、小学校の關係、これから10年後、中学校の統合を実現してから7年後ということですが、5ページの小中学校の施設の状況を見ていただくと、山下中と坂元中の關係だと山下中が施設の新しいということと、場所的にも町の中心部に位置しているということで、収容能力、規模に問題ないと思いますが、小学校の今後を考えていった時に、10年後は一つの目安ではありますがけれども、気になるのが、山一小の体育館が50年以上経過しているのですね。山下小の体育館も50年ということで、なんとか手を入れながらということになるでしょうけれども、この辺の老朽化が気になる所ではありますし、その他の施設についても、坂元小学校は、あの通り、外觀的にも大規模補修を入れなければならない状況があったりしますが、そういう点で悩ましい面もあるなと思います。

報告書について、今言ったようなことも含めて、意見がありましたら。

【全委員】

特になし

【議長】（齋藤町長）

なければ、各戸配布のチラシについて、先ほど事務局からは原案2で対応したいとの話でしたが、この關係についてはどうでしょうか。

これまで、説明会なり、町の広報へは、一定の意向調査の結果等については、お知らせをしてくれているということですよ。

【事務局】（佐藤学務課長）

はい、そうですね。意向調査とかは。

【教育委員】（大内委員）

これだと、誰も読まないのではないか。文書が多すぎて。

全戸配布としたら、エキスだけで、図入り絵入りで、何か絵を入れるなどして、詳細は、例えばホームページというデータを載せるようにして。こういう文書だと、全戸配布というのは如何かなというのが第一印象。ポスター的なものがないのではないか。

【教育長】（菊池教育長）

見映えがするというか、気を引くような見出しはあった方がいいかなと思うのですが、最初大きい版で原案を作ったのですが、中身が、検討委員会で住民説明会の時に作った資料とそんなに違わない形ですね。教育委員会として広報誌を出すに当たっては、それを全く抜きにするわけにはいかなくて、説明会の時には、教育委員会の説明会と同じようなことを繰り返さなければいけないと思うのですが、方針として出すに当たっては、結論を中心にしたものでもよいかとも考え、原案2も作成しております。

【教育委員】（大内委員）

全戸配布のチラシにしては、あまりにも文書の分量が多いので、年寄りが見るには、もう少し絵入りの方がと考えます。

これを全部入れる必要はあるのだろうかけれども、見映えがいい方がよいかと考えます。必要なものはホームページにデータを載せることもよいのではないのでしょうか。

【議長】（齋藤町長）

基本的には原案2という形で、もう少し絞って、より気を引くような工夫をするということによろしいでしょうか。

【教育委員】（大内委員）

見た目、大体こんなものだとということがわかればいいのかと。確かにアンケートの回収率とか大事かもしれませんが、どういう方向でいくのかわかれば、絵だけのチラシでもいいのかなと最初見た時、思いました。

【教育委員】（齋藤委員）

これまでの流れやポイントだけ図式化して表現すれば、年配の方にもわかり易くなるのではないかと思います。

また、大内委員からホームページという話もありましたが、もちろんホームページ

に載せることも大事ですが、年配の方がホームページを開いて見るというのは不可能なので、その辺の配慮も必要じゃないかなと考えます。確かに、今、若い人はホームページということで、どんどんアクセスできますけれども、情報として年配の人にどう知らせるかということも考慮する点ではないかなと考えます。

【教育委員】（大内委員）

データをホームページに乗せていけば、見る人は見るかなという思いです。

【教育委員】（荻原委員）

見る、見ないは別としてもホームページには上げた方がよいのではないかと思います。当日、パワーポイントで会場にいらっしゃる方にはこの内容をお知らせするので、イラストもあった方がいいと思いますし、見やすい方がお年寄りにもよいと思います。

【議長】（齋藤町長）

説明会の日に一人でも多くの皆様が出席してくださればよいのですが、住民意向調査で18歳以上が42%です。親御さんなり、幼稚園、保育所の関係者で84%と、全然世代によって問題意識が違っているのが見て取れるのかなと思います。

それから、山下第二小学校の整備の時を振り返ってみると、一定の方向性が決まってしまうと、最初の説明会は別としても、足を運んでもらう難しさは付きまとうと感じています。

色々ありますけれども、今頂いた意見を参考に、工夫して資料の作成をお願いします。

次に、今後のスケジュールについてご意見がありましたらお願いします。

【教育委員】（菅野委員）

原案2にもありますが、ただ単に器を1つにすることだけでなく、新しい学校をつくるのだということで、その新しい学校をどのようにしていくか、どのような特色を持たせるか今まで説明がありました。町、小中学校で抱えている課題をどのように補っていくか、教育長さんがお話されたように、ソフト面も含め、ただ単に一緒になるということだけではなく、山元町として新しい小学校、新しい中学校を、魅力ある学校を作っていくという、後ろ向きでなく、前向きで、こういう良い所もある、こういう風にやっていきたいという明るい前を見られるような内容もやはり必要であると思います。学校を一つにすることで、良い機会ではないか思います。

【議長】（齋藤町長）

菅野委員からの意見も出ましたので、先ほど教育長から説明していただいた学校教育の充実、ハードからソフト事業へということで、こちらに軸足を移してお話しをさせていただきたいと思います。

大震災がなければということではありますが、町としてもここに来て、ようやく学校教育行政のソフト面に力を入れられる時期、タイミングに来たかなと思いますので、教育長からの説明を踏まえた形で教育向上に向けて大きな節目に今後していければなと思いますので、この件について、学力向上策や構想についてですね、2つの資料から皆様のご意見を頂ければと思います。どうでしょうか。

【教育長】（菊池教育長）

元になる資料もお示ししていないので、これは、実際どうだという素朴な疑問ということでしょうかと思います。

【教育委員】（荻原委員）

「きたえるタイム」は具体的にはどのようなものでしょうか。

【教育長】（菊池教育長）

これは、学校で朝自習の時間や放課後など、勉強する時間を授業時間と別にとっている場合があるが、大河原町では、「きたえるタイム」と称して、小学校、中学校で先ほど言ったような時間に、少し勉強をわかるように、できるようになるための時間を設定して勉強するというものです。

【教育委員】（菅野委員）

各学校の校長先生方や先生方を交えて、どのような具体的なことをやっていくかというのは、これから話しをしていかなければならない。ただ、教育委員会として、新しい学校をつくるとともに学力向上に向けて力を入れていきたい。ただ、具体的なところまではなかなか明言ができなくて、それはこれから皆さんで知恵を出し合って、やっていくしかないのかなと思います。

【議長】（齋藤町長）

構想の中の「子育てするなら山元町」ということではありますが、小さい子の子育て支援からスタートしてきているところではありますが、これを小中学生、場合によっては高校生なども意識する必要があるのかなという思いもありますし、先進事例を集約すれば、行政的な立場から一定の方向性をまとめてお示しするというのも難しい話しではないですが、今回は、再編検討委員会でいろんな分野の皆様からのお力添えを頂いてまとめたというのがありますので、出来れば町を挙げて、学力向上、教育の充実に向けた力を結集しながら取りまとめていければと思っております。

【教育委員】（齋藤委員）

学力向上も勿論ですが、小学校と中学校がそれぞれ1校ずつになった時に、町の伝統文化の継承を学校としてどのように考えていくのかというのが疑問です。この間の

小学校の学習発表会を見ると、それぞれ子ども達が必死で、元気で、町の文化を継承しているなどとても感動して見てきたのですが、それが一つの学校になった時、それぞれの小学校でやってきたことの良さが一つになった時にどういう風に育てていけるのかなというの、私の中では一つの課題だと思うのですが、町の方では、一つになった時、どのように考えていくのかなというのが質問です。

【教育委員】（大内委員）

そこまでは至ってないかと思います。教育長も含めて、どの学校にしても、まだそこまでは考えていないのではないのでしょうか。統合の方向性だけは今作ろうとしていて、具体的にどのような学校づくりをするかというのまで至っていない。とりあえず今ある学校で取り組まなければいけないというのがこの資料の内容でしょうから。

【教育委員】（菅野委員）

よく考えられるのは、いくつかの学校が集まって1つになっても、その学校にとっては、いくつかの学校分も1つの地区となるため、地域の伝統を守るということは、その新しい学校でいくつかの伝統文化を守る、大切にすることになっていきますので、新しい小学校が一つになったとしても、そこの中の地域になりますので、それを大切にすることは変わらないと思います。それをどの様な形で継承していくかは次の問題になると思います。

【教育長】（菊池教育長）

今、お話いただいたとおりですが、学校がなくなるという時に、今の学校で地域の人と一緒に作り上げているものはどうなるのだろうかというのは皆さんあると思います。

ただ、菅野委員からお話頂いたように、新しい学校でも伝統を引き継ぐということになりますし、それを細分化すれば、新しい学校に各地区から子ども達が集まってきますが、学校では、自分が住んでいる地域を学ぶ時間がありますから、今の山一小なり山二小なりで取り組んでいるものを、子ども達が学校から地域に戻るような感じで調べたり、どなたか地域の方に来ていただいて地区毎に活動するという事で、枠組みを設けて引き継ぐということは、ある程度出来るかなと思いますが、それは授業時数の関係や体制などもありますので、新しい学校で出来るかなというのは、現段階で明言が出来るものではありません。

【教育委員】（大内委員）

科目ごとにいわゆる伝統行事というものを、学習発表会等で発表しているものをまとめると4つになってしまう。

その時に何を残すのかというのは、残念ながら判断していく必要はあると思います。残すものは残す方向で、その様になった場合に考えるのではないのでしょうか。

【教育委員】（菅野委員）

基本的には、それらを大切にするというのは根本としてありますので、それをないがしろにして、もういいわということはないと考えてもらってよいと思います。それを残すのはどういう形にしたらよいかは模索しなければなりません、大切にすゝる気持ちや心は変わらないと考えてもらっていいものだと思います。

【議長】（齋藤町長）

いずれ、そういったものや新しい校歌、校章をどうするかなどをまずは中学校、そして小学校という段階の中で、皆さんが思っていることを出し合ってもらって集約をしていくことになると思いますけれど。事務局としてもこれからということですか。

【事務局】（佐藤学務課長）

そうですね。その辺の具体的なところまではどうするという話しはないのですが、例えばこの間の音楽会ですと、坂元の神楽とか、地域の皆様からの指導を受けながら勉強するという中で完成するというのもありますので、我々としては、こういうものを大切にしなければならないという思いですが、今後の再編を進める中でより具体的にということになると思います。

【教育委員】（荻原委員）

学力向上についてですが、色々と資料を見せていただくと、親も子どもも、学力を向上するために、意識をまずは変えないといけないのかなと感じました。子どもにばかり、ああしなさい、こうしなさいということより、まず、親から教育しなければいけないのかなとも思います。

子どもが幼児期に、親も一緒に、親の膝で本を読むことで集中力がつくとか、親をまず指導していただきたい。私もそういう時間があれば、もっと違ったのかなと思いますし、子どもも大事なのですが、親にこういう風にするともっと違った道がありますよということをお伝えしていただきたいなと思います。幼児期から小学校低学年くらいまで、毎年親を集めてアドバイスや交流会など、そんなに堅苦しくなくていいのですが、そういうのを開いていただければと思います。

【議長】（齋藤町長）

今でも一定程度は対応しているのではないのでしょうか。

【事務局】（佐藤課長）

例えば、下敷きの3つの約束の配布など、PTAの総会時とか、機会がある時に呼びかけはしておりますが、なかなか一方的にこちらからのお願いというか、押し付けになっているのかもしれないので、その辺で家庭での取り組みといいますか、作り

上げるまでの課程の中で親を巻き込んだりしながら、押し付けでなく一緒に計画を積み上げて作っていくというような取り組みが必要だということは聞いておりますので、学校などと調整しながらやり方を考えて行きたいと思えます。

【議長】（齋藤町長）

生涯学習課での就学前の子どもや家庭への対応はどうでしょうか。

【事務局】（佐山生涯学習課長）

生涯学習課では、学力向上をポイントにしているものではなくて、子どもの育て方の側面から、家庭教育であったり幼児学級であったりということでの、子どもと親の関わり方の部分で地域の経験豊富な方の力をいただきながら実施しております。それがある程度うまくいっているのではないかと思っています。

【議長】（齋藤町長）

本格的に取り組む中では、もっとそういう方向にも力を入れていかなければということですね。

【教育長】（菊池教育長）

課題として、学力向上は大きいのですが、こちらの資料にも示したとおり知・徳・体で身体のことでもそうですし、心の面の指導とかも必要ですから、そういうことも含めた家庭への啓発が非常に大事なのかなど。学校と家庭が一緒になって取り組んでいけるような体制を作っていくながら、中身も充実させていきたいと思っております。

【教育委員】（大内委員）

学力向上というのは、結果的に家庭学習がどれくらいあるかということも大きいと思えます。秋田は、家庭学習をやるのが当たり前という風土になっています。山元はどうなのか、宿題はやるがプラスアルファの勉強はしているのかということと難しいのではないかな。家庭学習をいかにやらせるかではないでしょうか。

【教育長】（菊池教育長）

データを見ますと平均正答率は低いのですが、学習意識調査では、中学生は家に帰ってからの学習時間はそれなりにあるのですが、小学生は県や全国に比べると少なめ、特に休日はほとんど家で勉強していない状況です。県や全国は、休日に1時間2時間以上やっているというのがあります。その辺の取り組みの違い、意識の違いが結構大きいのだろうと思えます。ただ、学校で家庭学習までを見ることはできないので、その辺が難しいです。中学校でそれなりの時間やっているというのは、毎日どれだけやったかということのを提出しなさいということをや山下も坂元もやっているの、それを家で勉強したという時間としてカウントして、それなりの時間はやっているというこ

とはなっているのですが、小学校の方が、そういう意味では家庭学習の取り組みは悪いと思います。

【教育委員】（大内委員）

仙台市内だと小学生は塾にいます。では、山元で塾があるのかということから、やっぱりその辺も苦しいことはあるのかなと思います。

【教育長】（菊池教育長）

本町でも、小学校5・6年生と中学生の通塾率は、3割越すぐらいにはなっております。家庭教師を付けるとかそういうのも含めてですが。なので、塾に全く行っていないとか、塾に行く子が少ないというわけではないなという状況ではあります。

【教育委員】（菅野委員）

休日の勉強時間の話しがありましたけれど、もう一つはテレビを見る時間です。できるだけ少なくして、勉強する時間を増やしていかなければならない。先ほどの話しで、家庭との協力という話しもあるし、親や家庭の意識の問題もありますし、子ども、学校は当然、ですが、家庭とうまくタッグを組んでやっていかないと効果は出ないのかなと、なかなか難しい問題だと思いますけれども、勉強をやらないと、努力をしないとなかなか伸びないというのはあると思います。

【教育委員】（荻原委員）

学力がかなり高いお子さんもいると思いますが、中間の子や低い子もかなりいるんですね。その低い子達をどうやって中間まで上げていくかが、平均が上がるということだと思うのですが。上の子達はがんばっている子がいっぱいいると思うのですが、まだ勉強したいと思っていない子をどうやって中位まで上げていくかだと思います。

【教育委員】（大内委員）

経験上、それが一番大変です。上の方の子は伸びます。下の方を伸ばすのは大変です。

【教育委員】（菅野委員）

平均で上げていくとなると、下の方をなんとか持ち上げなくてはならない。教育委員として学校を訪問させていただくと、1クラスに2、3人の先生がおりますが、その人達が、理解が不十分な子ども達にうまく関わって、その授業の中で少しでもわかってもらえるような工夫や、宿題の出し方で、ここまで分かった子はこの宿題、ここまでの子はこの宿題などの工夫をしながら力を注がないと、うまくいかないのではないかと思います。

【教育委員】（齋藤委員）

子ども同士で教え合うというようなクラスの機を作ることも大事だと思います。もちろん先生から教えるということも大事ですが、わからない子に対して、クラスの中で、子ども同士の関係がうまくいけばとも思います。

【教育委員】（菅野委員）

それは、授業の中のやり方の中の一つの方法論としてありますし、人間関係の中でそのようなことを培っておくということも、一つの方法、手段だと思います。

【教育委員】（齋藤委員）

基本的に、緊張状態が子どもの中にあると、頭の中に入っていないのではないかと思います。だから、リラックスして、色んなことが吸収できるような環境がすごく大事ではないかと思います。クラスの雰囲気やどういう子ども達が集まってきて、どういう環境かというのが非常に大きいような気がします。

【議長】（齋藤町長）

時間も時間なので、前に進めたいと思いますが、大きな意味での本格的な取り組みは来年度以降になりますが、必要なものは予算措置し対応可能なところから、対応していけるようにしていきたいと思います。

では、次の議題として、9月議会で認められたレクリエーション施設（パークゴルフ場）の今後の取り組みについて、担当課から説明願います。

【事務局】（佐山生涯学習課長）

はい。それでは、資料2をご覧頂きたいと思います。

9月議会で、280万の予算をいただきました。現在は、国際興業という会社に業務を発注して、その工期については来年の3月ということで進めています。その取り組みの背景について、資料にて説明いたします。

パークゴルフ場の整備に関しては、健康で心豊かなライフスタイル作りに働くものとして行われるものです。県内外の整備状況についてですが、資料の真ん中にもあるとおり、赤字で書いてあるのが宮城県、青字で書いてあるところが福島県のパークゴルフ場の整備図、あるいはこれから整備をする所、大小併せて20を越える場所が現在ある状況です。北海道を中心にして、発祥地が北海道なので、そちらを中心にして競技人口が非常に多いということがありますが、そういったところで拡大が期待される反面、供給過多により生じる競争激化の心配が懸念されます。そういう意味で、現在は事業の可能性調査を実施しているということです。事業可能性調査については、業界全体の動向調査、あるいは近隣における整備状況、競合状況調査などの市場調査と、概算整備コスト等々の採算性調査、この2本を2つの柱としているということになります。それらの調査の結果を踏まえて事業の可能性の判断を行う流れです。

そこから、事業可能性を見出した上で、候補地の選定、そして基本計画に着手するという流れになります。現在はこの事業可能性調査を行っています。事業可能性があるということで、今後事業を進める場合は、31年度に候補地の選定、そして基本計画を行いたいと考えています。それ以降については、測量設計だったり、地質調査だったり、順調にいけば平成34年度には工事に着手したいと考えています。これが大まかな流れです。

それから、次頁をお開きいただきたいと思います。参考までに、パークゴルフ場の整備計画を取り巻く本町の現状について簡単に触れさせていただきます。

平成28年6月の議会では、様々な意見をいただく中で、予算獲得まではいかなかったわけですが、その後2年を経過する中で、状況が変わっているというポイントがあります。ここでは、4点お話しをさせていただきます。

まず一つは、事業の優先順位ということで、応急仮設住宅が解消されておらず、町民の生活基盤が不安定な状態であった。これは2年前の状況です。現在では新市街地の整備が完成して、応急仮設住宅が解消しています。それから、ハード整備については、避難路の整備などを残すのみとなりました。

2点目、既存公共施設の老朽化ということで、こちらは、既存公共施設の老朽化に伴って、雨漏りなどが発生している箇所があるということで、その他優先して解消すべき施設があるのではないかとということです。この件に関しては、29年度の当初に教育委員会の定例会で説明をさせていただいた内容になりますけれども、向こう5カ年間の整備改修計画を策定し、計画的な取り組みを実施しているところです。

3点目、整備財源です。当時は、整備に係る補助金は基本的には無いという状況の中で、現在は、過疎地域に本町が指定されたため、過疎対策事業債の活用が可能となりました。過疎対策事業債を活用することによって、70%相当額が、普通交付税に歳入されるという制度が活用できるようになりました。実質は、2年前は100%手出しで整備をしなければいけなかったのが、今では3割の手出しで済むとなったという状況の変化があります。

それから、最後に、財政の見通しが不安定ということで、2年前は、30年度までの財政収支の見通しが17億円の赤字になるということがありました。現在では、32年度までの推計を見ても、20億円の基金が確保できるという試算が現在公開されています。それから今29年度の決算が終わった段階ですが、29年度末の基金残高、これは自由に使えるお金という捉えですが、48億円ということが財政から示されています。こういった状況の変化等々がありまして、現在、設計委託を発注して、整備計画を進めているということです。

説明については以上になります。

【議長】（齋藤町長）

それについては、私の方からもちよっとお話しさせていただきます。

今説明してもらったように、2年前の6月議会では、必ずしもパークゴルフ場その

ものに反対するわけではないのですが、やはりこういう状況なり、財源確保の関係からすると時期尚早だろうということがございまして、あの時は、賛成反対6対6で、そういう時は議長で決まりますが、議長も慎重な立場に回った結果、その年度の予算は残念ながら否決されたということで、今日に至ったというわけです。

私としましては、早期公約ということもございましたし、うちの町の人口が減少している中で、いかに活力なり賑わいを生みだしていくかという決め手は、やはり交流人口だと思っております。もっと申し上げると、産直施設もしかりですが、産直施設だけではなかなか大変です。やはり、町内に既存のゴルフ場があったり、パークゴルフ場があったり、色々な外から人を呼び込めるツールというか場面、場所がないと、なかなか、人口がこれから45%も減るという中では、立ち行かなくなるので、これは是非実現したいと思っております。2年経過する中で、他の事業も進んできましたし、財源的にもほぼ問題の無い形で、状況が変化してきているということです。過疎債の活用というのが非常に大きいですし、町が自由になる基金残高も、今年は11億円の基金残高がございまして。まず、県南の自治体どこへ行っても20億以上の基金を持っているという所はほぼ無いです。そういう中での48億です。来年、再来年と予算を執行しても、まだ20億以上の財政調整金が確保されるということですが、多分、来年31年、32年度2ヵ年執行して、ここから財調が28億円切るということは到底考えられません。山元町の町長が財調から取り崩して使える金額は、多くても10億です。ですから2年間で28億財調から取り崩して使うということにはならないと思うのです。そういうことで、決して将来につけを大きく残すものでもないですし、パークゴルフ場そのものからの採算性というのは期待できません。というのも1回当たりの使用料が500円、600円の世界ですので、むしろ、コミュニケーションなり、出不精対策、健康増進とか、交流人口なり、トータルでの経済効果、地域活性化効果を期待すべき施設なのかなと思います。

それから、敢えてこの機会に申し上げておきますけれども、考えようによっては、何故パークゴルフ場整備が教育委員会生涯学習課の担当なのかということにもなりかねませんが、これは頭の痛いところでして、各自治体や県でも、スポーツそのものを教育委員会でやるべきか、町長部局、町事務局でやるべきかというなかなか線引きが難しいところでございます。本町では、スポーツ関係、生涯スポーツ関係を生涯学習課でやっているということや、組織構成、人の配置の問題等ありましてやむなくという側面もあって、生涯学習課にスポーツ計画部局をわざわざ設置して担当してもらっているという町の都合もあるということもご理解していただければと思います。

【教育委員】(荻原委員)

健康増進等のためということで、パークゴルフ場を作る理由を伺ったのですが、町民の中には興味の無い人もいます。そこで、パークゴルフ場と併設して、何か子どもでも女性でも惹きつけられるようなテーマパーク的なものを一緒に作っていただけたらなと思います。

また、坂元中学校の校庭をもう少し広げて、あの場所をパークゴルフ場に使うなどと考えられれば、興味のない人も、そういう理由だったらいいのかなと気持ちが動いたりするのかなとも思いました。

【議長】（齋藤町長）

確かに、場所的なものを考えると、産直施設との相乗効果が期待できるとすれば、産直施設に遠い場所よりはいいかもしれません。場所的にはそう考えますけれども、中学校は建物がありますので、建物を除かないとなかなか一定の面積が確保しにくいと考えるとちょっと厳しいと思います。建物も老朽化が進んでいて解体しようという判断がつく施設であれば、そういうような方向性も検討になりますが、あの経過年数の建物ですと、むしろ何か他に活用できる手立てはないのだろうかと考えざるを得ないのかなと思います。テーマパーク的なものも確かに一つのアイデアではありますが、パークゴルフ場が、今後仮に、いい調査結果が出て前に進もうとなった時に、更にプラスアルファの事業費が出てくるということをどう考えるかということです。一緒にできれば一番よいとでしようが、仮にやるとしても、段階的にやっていかないと、なかなか難しいと思います。

【教育委員】（荻原委員）

坂元駅から中学校のあたりはよく見えます。電車の中からでも。ですので、外から来たお客さんが、例えばですけど、ホッキーくんの置き物など、何かインパクトのあるものがあって、山元町のスポットはここだと、そういう形でなっていけば、坂元ももっと交流人口も増えて、もしかしたら人口そのものが増えていくのではないかと期待をしました。

【議長】（齋藤町長）

町としても、今色々な意見がありますので、駅周辺の土地利用、住民のための土地利用を大いに工夫する必要があるなという問題意識は持っています。

【教育委員】（大内 委員）

これだけの施設があるのに、改めて造る必要あるのかということもあります。荻原委員がお話ししたように、別々に建てるよりは集中して建てた方がよいのではないかと思います。パークゴルフ場が本当に必要かというのは、また別の話しですが。今回は調査ですからね。

【議長】（齋藤町長）

確かに数的には仙北を中心にして増えてきております。増えてきてはいますが、パークゴルフ場というのはゴルフと違って、1つのコース9ホールで、大体30分か40分で回ります。新地にも2箇所ありますが、短い時間で手軽に気軽にできる分、コ

ースの数が少なければ、そこに行く人が少なくなる。これは、利用者の都合にもなりますが、やるなら一定の時間、一定のコースを周りたいという来訪者の心理が働きます。ですから、ゴルフの愛好者がどこに行っているかというところ、ここに書いてある相馬の光陽の81ホールという大きなところがあります。そこに行って皆さん楽しめる人が多いということです。ですから、今回の調査ではそういう関係も含めて、トータル的にどういう形でやるのであればよいのかという事も含めて、調査を進めているところです。小さく9ホールでいいのでは、という風に作っても、それでは多くの人に来てもらえません。ということを考えながら実施しないと交流人口の確保には繋がらないということをお願いいたします。

要するにほどほどですね。町内の人も楽しめる、外からも呼び込める、そこからの交流関係はいかがでしょうかという、客観的なデータを揃えた中でということでございます。これは、好き嫌いがありますので、個別に係わるところは、嫌いだという人もいますし、屋内の方がいいという人もおりますので様々ですが、私といたしましては、町の活性化、人を呼び込むための一つの大きなツールにしたいというのが基本にあるということで、今回計画したということです。

よろしいですか。とりあえず、そういうことでスタートするというところで。

【全委員】

はい。

【議長】（齋藤町長）

時間も過ぎましたので、次に進めたいと思いますが、全体としてその他含めて何かあればお願いします。何かありませんか。

【全委員】

なし

【議長】（齋藤町長）

ありがとうございました。

【司会：佐藤学務課長】

ありがとうございました。

以上をもちまして、第2回教育総合会議を閉会といたします。大変ご苦勞様でございました。